

ATLIA

川口市立アートギャラリー・アトリア

| 年報 | Annual Report |

2020.4—2021.3

目次

基本理念／沿革	2
令和2年度 実施事業一覧	3
春の企画展 第9回 新鋭作家展 ざらざらの実話	4
新春企画展 アートな年賀状展2021	6
特別企画 川口市寄贈作品展	8
ワークショップ／たのしい実技講座／やさしい鑑賞講座／アートさんぽ	9
アトリア・サポートスタッフ	12
貸しギャラリー事業	13
令和2年度実施事業件数・利用者数一覧	14
発行物／スタッフ	15
利用案内	16

アトリアがめざすこと

川口市立アートギャラリー・アトリアは、平成18(2006)年4月にオープンした小さなアート施設です。現代アートの展覧会や地域に根ざした事業を展開し、市民が新しい表現に出会い多様な価値観を共有する場を目指しています。

アトリアの活動には5つの大きな柱があります。「企画展・アートウォッチング」「ワークショップ・アートさんぽ」「講座(たのしい実技講座、やさしい鑑賞講座)」「連携事業(地域連携、学校連携)」「貸しギャラリー事業」。これら5つの柱をゆるやかに結びながら、ものづくりのまち川口におけるアート活動の拠点として、様々な垣根を超えてアートの根をひろげます。

■ 企画展 ■ アートウォッチング

現代アートやデザインをはじめ、地域に根ざした企画展を開催しています。アートが内包する多様な価値観を提示すると同時に地域資源をアートの視点から見直すことを試んでいます。また新鋭作家のための公募展や参加型の企画も行っています。アートウォッチングはアートを能動的に見るための様々な活動を通じて鑑賞の新しい可能性を探るプログラムです。

■ ワorkshop ■ アートさんぽ

子どもから大人まで楽しめる様々な企画を年を通して実施しています。造形だけでなく身体表現や鑑賞、まち歩きなども組み合わせたオリジナルのプログラムです。講師はそれぞれの分野で活躍するアーティストや専門家がいます。

■ たのしい実技講座 ■ やさしい鑑賞講座

たのしい実技講座では初心者の方から次のステップを目指す方まで気軽にものづくりを学び作品制作をすることができます。やさしい鑑賞講座は研究者や専門家を講師に招きアートや文化について「観る・知る・深める」ための講座です。

■ 連携事業(地域連携・学校連携)

地域のアートスポットの情報発信に協力するほか、連携してイベントや展覧会などを実施しています。また学校との連携を図りながらアーティスト・イン・スクール事業を実施。学校向けのギャラリートークなども行っています。

■ 貸しギャラリー事業

市民をはじめとする一般の方々にアート活動や作品発表の場としてご利用いただくために、館内の展示室およびスタジオを貸出ししています。

施設とその成り立ち

大正14年の創業以来、約80年にわたり市民に親しまれてきたサッポロビール埼玉工場が平成15年に閉鎖されました。この工場跡地にリボンシティが生まれ、「まち歩きが楽しい新しい都市空間の実現」を開発方針として、大型ショッピングセンターや住宅街区のほか、アートパーク(並木元町公園)などが建設されました。

緑の木々や芝生などを有するこの公園内にサッポロビール株式会社から建物の寄贈を受け、川口市立アートギャラリー・アトリアが誕生しました。ひろく張り出したウッドデッキを持つ、集成材を利用した木構造の平屋づくり(一部2階建て)の施設は、人とアートが自然のひろがりのなかでふれあうよう設計されました。

サッポロビール工場の土台を支えた松杭がギャラリーの床材として再利用されています。

名前の由来

「アトリア」とは、アート、アトリエ、リア*に由来する造語であり、施設がアート活動を通じた市民の憩いの場となるようにとの願いが込められたものです。

平成17年8月に名称を募集。全国46都道府県から寄せられた1649通(市内からは799通)の応募のなかから厳正なる審査の結果「アトリア」が愛称として採用されました。

※川口総合文化センターの名称「リア」を指します。



■=企画展 □=企画展関連イベント ■=共催事業
●=ワークショップ ●=たのしい実技講座 ●=やさしい鑑賞講座 ●=アートさんぽ ●=アートウォッチング

月	事業内容	貸しギャラリー
2020 4月	<ul style="list-style-type: none"> ■ 春の企画展 第9回新鋭作家展 ざらざらの実話▶4月4日~5月24日 □ 思い出の場所を描こう in 川口▶4月12日 ※春の企画展関連 □ はじめての鑄造▶4月19日 ※春の企画展関連 	
5月		
6月	<ul style="list-style-type: none"> ■ 春の企画展 第9回新鋭作家展 ざらざらの実話▶6月9日~8月30日 ■ 第15回 川口市美術家協会選抜展▶6月17日~28日 	
7月	<ul style="list-style-type: none"> ■ 川口市小・中・高校硬筆展▶7月1日~5日 ■ 東京オリンピック・パラリンピック関連▶7月7日~9月6日 	
8月	<ul style="list-style-type: none"> □ ギャラリートーク▶8月22日 □ アーティストトーク▶8月30日 ● アートウォッチングカード▶会期中随時参加 	
9月	<ul style="list-style-type: none"> ■ 第29回 水道ポスターコンクール入賞作品展示会▶9月9日~13日 ● 真鍮でつくるバターナイフ▶9月12日・13日 ● 現代美術超入門ー風景をみる。アートに出会う。▶9月27日 	<ul style="list-style-type: none"> [スタジオ] 川口市退職教職員会 緑と文化の創造展(文化祭)▶9月18日~21日 [展示室A] LEE HYUNOK 個展2020▶9月29日~10月4日 [展示室B] 第3回 グループ快 作品展▶9月29日~10月4日 [スタジオ] 第31回 川口市工芸展▶9月29日~10月4日
10月	<ul style="list-style-type: none"> ■ 川口の美術家たちのアートな毎日▶10月14日~18日 ■ 川口暮らふと連携ワークショップ▶10月24日 ● 匠と行く! 神社で狛犬ウォッチング▶10月24日 	<ul style="list-style-type: none"> [スタジオ] ラッキーワイド 造形の世界 2020▶10月6日~11日 [展示室A・B] 西陣美術織 若冲 動植絵線展▶10月7日~11日 [展示室A・B] 第55回 川口市小学生図画コンクール入賞作品展▶10月20日~25日
11月	<ul style="list-style-type: none"> ■ 秋の企画展 第15回 アーティスト・イン・スクール 成果発表展▶11月7日~12月6日 ■ 講師作品展▶11月7日~12月6日 ■ 特別企画 川口市寄贈作品展~第一弾 大泉家コレクション~▶11月21日~12月6日 	
12月	<ul style="list-style-type: none"> ■ 第55回 川口市特別支援学級合同作品展▶12月9日~13日 ● <うごかすカタチ> 影の追いかけっこ▶12月12日 ● <うごかすカタチ> ○△□でデザインーモビールをつくらう▶12月19日・20日 ■ ワorkshop 成果展示▶12月23日~27日 	[展示室A・B] 第15回 小学生「身近な生き物」絵画コンクール展示会▶12月15日~20日
2021 1月	<ul style="list-style-type: none"> ■ 新春企画展 アートな年賀状展2021▶1月8日~31日 □ アートなお正月あそびキット無料配布▶1月10日・17日・24日・31日 ■ 中学生のART CLUB展▶1月30日~2月7日 	
2月	<ul style="list-style-type: none"> ■ 川口市小・中・高校書きぞめ展▶2月10日~14日 ■ 川口の図工美術まなび展▶2月20日~28日 ● 真鍮でつくるバターナイフ▶2月27日・28日 	
3月	<ul style="list-style-type: none"> ■ オープンファクトリーサテライト▶3月9日~14日 	<ul style="list-style-type: none"> [展示室B] 空と線 岡崎未来 個展▶3月2日~7日 [展示室A] 和風照明「行灯展」▶3月3日~7日 [スタジオ] 上青木公民館陶芸クラブ 作品展▶3月6日~7日 [スタジオ] 光風会埼玉研究会▶3月14日 [展示室A・B・スタジオ] 美の精鋭たち 2020+1 -hope for the future & meaning of life-▶3月17日~21日

※2020年4月1日~2021年3月31日時点の実施事業を一覧にしています。

※表内のグレー部分は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止または変更した事業です。



春の企画展 新鋭作家展 第9回優秀者 遠藤夏香・木村剛士

ざらざらの実話

2020年6月9日(火)～8月30日(日)

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、会期を4月4日～5月24日から変更して開催。

また、会期中の夜間開館（土曜日のみ20:00まで）を中止。

観覧料：一般300円（会期中何度でも再入場できるパスポート制）

高校生以下無料。65歳以上の方、20名以上の団体、障害者手帳をお持ちの方と付添の方1人は半額。

担当スタッフ／秋田美緒
グラフィックデザイン／大崎善治 (SakiSaki)
記録／末正真礼生
記録集印刷・製本／株式会社グラフィック



M.S.



M.S.

〈新鋭作家展〉は市の文化芸術振興と新鋭作家の発掘・育成を目的とし、アーティストから実施したいプランをひろく募集しています。審査で選ばれた優秀者は、準備期間中に地域リサーチやイベントなどを行い、当ギャラリーと協働で新作をつくりあげます。会場では取材過程や担当スタッフとのやりとりを資料で公開し、プロジェクトをより身近に感じられるように工夫しています。

遠藤夏香氏は絵具を手にとり塗り伸ばす絵描きですが、その直接的な手法と同じく、自ら市内に制作拠点をもち多くの人々とかわることを志向しました。会話から得られた情報に想像を交えた景色を描き、空間にちりばめるように配置することで、鑑賞

者も歩きながらまちの奥深さに触れる作品を仕上げています。一方で、木村剛士氏はものづくりに興味を持ち、市内の工房や教室に積極的に取材を行いました。住宅に紛れるように存在する工場のひっそりとした外見と内部で行われている仕事のギャップに驚いた経験をそのままに立体化した作品は、木村自身の造形技術の高さをも存分に生かした大型インスタレーションになりました。

2019年9月に審査を行い約半年の準備を経て開催する予定だった本展ですが、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い会期やプランの変更を余儀なくされました。しかし、臨時休館を明けた会場で配られたアートウォッチング・カードからは「楽しみにし

ていた」「再開を待っていた」という声が聞かれ、近隣住民とアーティストが身近にかかわる楽しさや喜びを改めて感じる機会になりました。

▼出品作家

遠藤夏香

1984年群馬県生まれ。2010年武蔵野美術大学大学院造形研究科油絵コース修了。他者が残した記憶・記録や物語の背景など自身が知り得ない過去・歴史に対して、身体的尺度を基軸とした手法で主観的アプローチを試みる。

木村剛士

1980年東京都生まれ。2007年多摩美術大学大学院美術研究科彫刻専攻修了。地域との融和をはかりながらも、一定の距離感を保ち客観的視野にたつて取材・制作することによってまちの意外な側面をあぶり出す。



関連イベント

ギャラリートーク

展覧会担当者が企画意図や出品作家・作品などについて話す一般向けのトークイベント。特に作品の元となった取材の様子など、展覧会の裏側とも言える部分をお話ししました。身体的距離を一定以上保ちながらの参加に協力いただくことで開催を実現しました。少人数ならではのアットホームな会話もあり、作品とともに楽しむ機会となりました。

開催日時／8月22日(土) 14:00～15:00
※4月11日・5月10日から変更・縮小して開催

参加者／5人
案内／学芸スタッフ
参加費／無料(観覧料別途)



アーティストトーク

出品作家が本展での取り組みについて語るトークイベント。展示空間のなかで作品を目の前にしながらのツアー形式で行いました。材料や手法・取材のできごとを自らまっすぐに話す木村氏、司会からの質問に言葉を選びながら慎重に答える遠藤氏、それぞれが話す様子からも制作への姿勢や人柄の違いが伝わる内容となりました。感染症拡大によって起きた多くの変更や困難を含めた本展が、制作活動について再考する契機ともなったという2人の今後の発表が注目されます。

開催日時／会期前：8月30日(日)
15:00～16:00
※5月24日から変更して開催
参加者／18人
講師／遠藤夏香・木村剛士(出品作家)
参加費／無料(観覧料別途)

特設コーナー

アートウォッチング・カード

鑑賞者が自由にコメントやイラストが記入できるカードを配布し、集まったものを公開する鑑賞促進ツールです。作品への共感・まちへの思い入れのほか、アーティストへの応援、臨時休館から再開した施設へのメッセージも多く寄せられました。多様な意見が表明される場として展覧会が機能することを目指した試みが、直接的なコミュニケーションが難しいコロナ禍でもその力を発揮してくれました。

開催日時／会期中随時
参加者／合計233枚
参加費／無料(観覧料別途)



中止した関連事業 まちをつかみ、とりだすワークショップ

アーティストが取材したまちの様子や制作手法に触れる制作イベント。作品空間の中に成果物が展開されることで市民参加型の展覧会を実現する一要素とするため、会期前および会期中に開催する予定でした。2020年3月初旬に中止を決定しプランの練り直しを行っています。

開催日時・講師／[古代の海を描こう]
3月28日(土) 10:30～12:30
講師：遠藤夏香
[思い出の場所を描こう in 川口]
4月12日(日) 10:30～12:30
講師：遠藤夏香
[はじめての鋳造]
4月19日(日) 14:00～17:00
講師：木村剛士



新春企画展

アートな年賀状展2021

2021年1月8日(金)～31日(日)

観覧料：無料

応募いただいたすべての年賀状を一堂に展示する展覧会。誰もが気軽に出品できる本展は14回目となり、市内を中心に、北海道から関西までの全国各地から705通の力作が届きました。千支の「^{うし}丑」がカラフルな版画やイラスト・スタイリッシュな絵文字などで表現されるほか、まだ見ぬオリンピックを題材にした作品も。つくり手の多彩な工夫が込められた1枚1枚に鑑賞者は目を凝らし、「いろいろな年齢層のいろいろな感性に触れられて楽しかった」「こんな年賀状をもらえた人は嬉しいと思う」「来年の参考にしたい」といった感想が聞かれました。

会期中の毎週日曜日には来館した未就学児～小学生を対象に「アートなお正月あそびキット」を無料配布しました。コロナ禍で静まりがちな館内も鑑賞者の笑顔で華やぎ、健やかな一年を願う気持ちを新たにしました。



担当スタッフ/小野寺茜・向井ひなの
グラフィックデザイン/芝崎曜子



関連イベント

アートなお正月あそびキット無料配布

サポートスタッフが主導し毎年行っていたイベント「アートなお正月あそび」に変わり、家庭で楽しめる工作キットの配布を行いました。中身は2種類のコマの材料と説明書。好きな絵や模様を描いた羽を数枚組み合わせ、回したときの色の変化を楽しむ「変身!カラフルコマ」と、8枚の絵をセットして回すと絵が動いて見える「くるくるアニメコマ」をつくれます。一見シンプルなあそびですが、開発には多くの試行錯誤があり、材料の加工やパッケージングなど地道な作業を手分けして進めました。利用者への配布もサポートスタッフ自身の手で行い、嬉しそうに持ち帰る子どもたちの姿に、およそ半年間にわたった準備の成果を見ることができました。

配布日時/1月10日(日)・17日(日)・24日(日)・31日(日)
各日13:00～16:00

対象・配布数/未就学児～小学生 各日先着25人(合計100人)
案内/サポートスタッフ、学芸スタッフ
参加費/無料



制作の様子



おうちでたのしむプログラム

コロナ禍による臨時休館の際の取り組みとして、つくってあそべる工作レシピをスタッフブログにて配信しました。「アートなお正月あそびキット」と同じく、これまでサポートスタッフとともに考案してきた「アートなお正月あそび」がベースです。2016年に行った「おさるのなかまあつめ」を第1弾として、ユニークなゲームやミニ工作の中からピックアップし、家庭でも用意しやすい材料の案内やつくり方の手順・ダウンロードしてすぐ使える型紙も掲載。本年度中に第5弾まで更新し、経験の蓄積を生かすことができました。

配信日/2020年5月～
対象/主に未就学児～小学生
参加費/無料





特別企画

川口市寄贈作品展 第一弾 大泉家コレクション

2020年11月21日(土)～12月6日(日)

観覧料：無料

川口市に寄贈された美術作品を紹介する特別展。第一弾となった「大泉家コレクション」では、市内の旧家である大泉家より寄贈された多くの作品の中から、横山大観氏をはじめとする日本画を中心に公開しました。会場では、作品を収集し、川口市長も務めた大泉寛三氏の紹介のほか、100年を超える大泉家や同家が経営する株式会社大泉工場の歴史とともに当時の川口市の出来事を紹介する年表、国登録有形文化財である大泉家住宅の資料なども展示。市民の共有財産である寄贈作品を鑑賞するだけでなく、地元の旧家や企業への理解を深める機会にもなりました。会期中の土・日曜日には、館外ウッドデッキで株式会社大泉工場によるミニマルシェも開かれ、多くの利用者でにぎわいました。



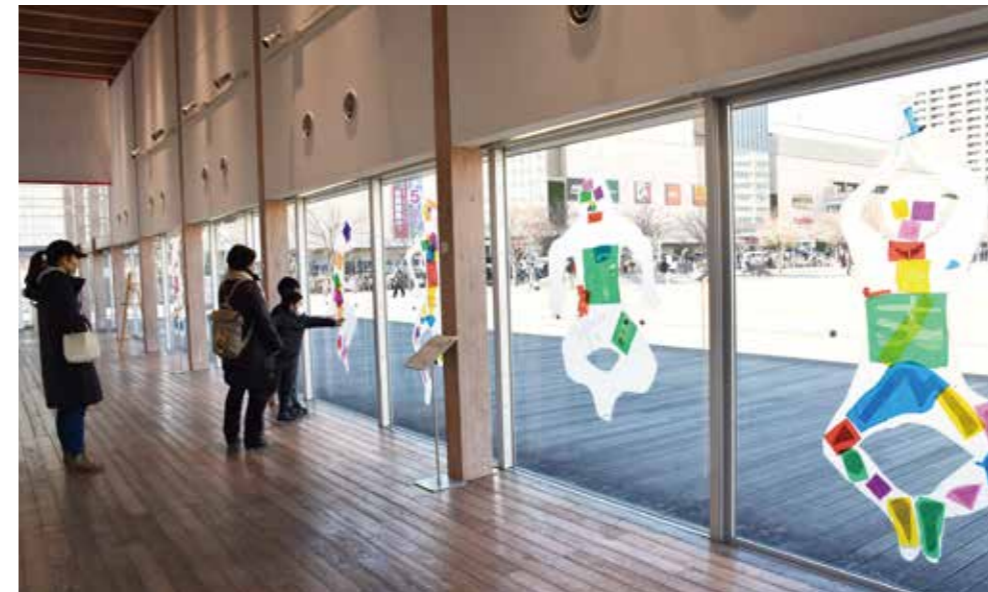
ワークショップ

年間を通して多くの方楽しんでいただける様々なワークショップを開催。造形あそびに加えて身体表現や鑑賞なども組みあわせたオリジナルのプログラムを実施しています。

〈うごかすカタチ〉影の追いかっこ

当ギャラリーのひろい空間に、自分たちの影を映し出すワークショップ。大きな薄いプラスチックの板にペアで寝転がり、互いの輪郭をクレヨンでなぞった後、力をあわせてハサミで切り取り、自分たちの分身である影を誕生させました。さらに、ハートや星・火の模様など好きなかたちを切り抜き、カラーセロファンを貼って分身を装飾することで、表情豊かな作品に仕上げます。最後は、制作した作品を回転台にぶら下げて、ぐるぐるまわして鑑賞の時間。電気を消した展示室の壁に現れた巨大な影は、まるで追いかっこをしているよう。参加者たちは後を追ったり、見とれたり。影でできた空間を味わう時間は、日常ではできない体験となりました。

開催日時/12月12日(土)
 ①10:00～12:00・②14:00～16:00
 参加者/年中～小学2年生と保護者のペア
 ①5組(10人)・②4組(8人)
 講師/原倫太郎+原游(美術家)
 「変換」をテーマにインスタレーションを制作する原倫太郎、絵画のコードをテーマに制作する原游によるアーティスト・ユニット。個々の活動に加えて、体験型の展示やワークショップを各地で開催。
 参加費/1000円(1組)



〈うごかすカタチ〉影の追いかっこ 成果展示

担当スタッフ/柴澤希

年中～小学2年生と保護者のペアを対象に開催した12月12日(土)のワークショップ成果物を、外からも見える開放的なスペースに展示しました。ワークショップ当日は電気を消して影を鑑賞しましたが、明るいなかで見える作品はそれぞれの個性が際立ち、また違う印象に。親子で制作したにぎやかな作品は、昼夜問わずギャラリーを彩り、近隣の方にも楽しんでいただける展示になりました。

開催日時/12月23日(水)～27日(日)
 観覧料/無料



〈うごかすカタチ〉○△□でデザイン —モビールをつくらう

図形と色の組み合わせを生かしてモビールをつくるワークショップ。最初はコピー用紙から自分だけの図形をざくざくと切る時間。その中からお気に入りのかたちを選び、色のついた塩ビ板に重ねて同じかたちに切り出しました。このパーツに穴をあけ金色の糸を通して結び、スタンドに吊るす作業をくり返します。途中で横棒を入れると構造が複雑に。参加者は真剣な表情で糸を少しずつずらしながら、慎重に吊りあう位置を探しました。最後にできあがったモビールを並べて鑑賞会。エアコンの風でぐるぐると回り、ライトを当てると壁には大きな影が映ってとても幻想的。手を動かすなかで生まれたかたちから、個性ある作品が完成しました。



開催日時/①12月19日(土)・②12月20日(日)
各日13:30~16:00

参加者/小学3年生~中学生 ①10人・②6人

講師/丸山素直(アーティスト/デザイナー)

花や小鳥、動物などの自然をモチーフとしたイラストやデザインを多く手掛ける。教育機関や福祉施設においてはワークショップデザイナーとして活動し、幅広い年齢層や環境に合わせた表現活動を企画する。

参加費/500円

たのしい実技講座

各分野のつくり手を講師に招き、気軽にものづくりを学んだりアート作品を制作したりするための講座です。

真鍮でつくるバターナイフ

真鍮を使用し、オリジナルのバターナイフをつくる講座を実施しました。まずは、柄の部分になる筒状の木材に真鍮の管を差し込みます。この金属の上部をハンマーでつぶし、2つの重たいローラーの間に入れハンドルで回しながら圧力をかけて延ばす圧延機をつかい、刃になるところをつくります。それができたら、好きな刃のかたちをマジックで描きこみ、グラインダーという砥石がまわる機械で大まかに削りやすりで微調整。仕上げにハンマーでたたいて跡を模様のようにつけたり、イニシャルを刻印したり、より個性的な作品にする参加者も。単純な真鍮の管が、世界でひとつのバターナイフにできあがっていく工程は印象深く、貴重な機会となりました。

開催日時/第1回 ①9月12日(土)・②9月13日(日)
第2回 ①2021年2月27日(土)・②2月28日(日)
各日13:30~16:00

参加者/18歳以上 第1回 ①6人・②6人
第2回 ①6人・②6人

講師/今出央介(金工作家/オタマチャクシ工房主)

2007年、川口市senkiya内にアクセサリーを手がけるオタマチャクシ工房を設立。現在は越谷市に拠点を移し、アクセサリー工房・お弁当屋・建築工房などを運営。衣食住の調和を考え、日々の暮らしを楽しめる「ものづくり」を目指す。

参加費/500円



やさしい鑑賞講座

各分野における専門家を講師に招きアートについて「観る・知る」ための講座です。

現代美術超入門

—風景をみる。アートに出会う。

現代美術に親しむための入門講座。コロナ禍での開催を踏まえ、参加者が様々な場所へ「旅」をするような気持ちになれるよう、身近な彫刻や日本各地のパブリックアートを中心に話をしました。前半は、講師が携わったアートプロジェクトを滞在時の写真とともに紹介。後半では、歴史的な視点から、17世紀オランダにおける風景画の登場、風景写真、風景彫刻へと話が進みます。最後は「野外彫刻」「パブリックアート」「アートプロジェクト」をキーワードに、日本における現代アートの変遷をたどりました。参加者からは「アートは今後どのように変化していくのか」といった、未来についての質問も。現代美術を学びながら、過去から現在、そして未来のアートについても考えを深める時間となりました。



開催日時/9月27日(日) 14:00~16:00

参加者/28人

講師/藤井匡(東京造形大学教授)

1970年山口県生まれ。九州大学文学部卒業。1995年から2007年まで宇部市役所学芸員として(現代日本彫刻展)ほかの展覧会を担当。後にフリーランスとして各地での展覧会やアートプロジェクトに携わる。専門は、彫刻を中心とする日本の近現代美術。

参加費/300円

アートさんぽ

歴史的建造物や地域産業・文化財だけでなく、身近な場所をめぐりながら新しい視点を発見するためのツアーです。



匠と行く! 神社で狛犬ウォッチング

狛犬をテーマにしたアートさんぽでは、川口市の総鎮守であり鑄物業の守り神も祀られている川口神社に伺いました。境内に5対ある狛犬を講師の案内のもとに鑑賞し、鑄物だけに留まらない地域のものづくりの豊かさに触れることが目的です。出発前に、落合氏から狛犬の基礎知識のレクチャー、途中立ち寄った小川石材店では材料となる石を彫ってみる体験も。狛犬のうち2対を手掛けた小川氏の解説と石を彫る難しさの質感とが相まって、匠の技の素晴らしさが鮮やかに目に映ります。奉納された時代を象徴するポーズや量感のある筋肉の表現、尻尾の凝ったかたちなどに注目し、どこのまちにもあるようでそれぞれが唯一無二の狛犬の魅力を再発見することができました。



開催日時/10月24日(土) 13:15~17:00

参加者/市内の中学生以上 15人

講師/小川長四郎(有)小川石材店代表/石彫工

安永3(1774)年創業の石材店八代目。幕末期の先祖作の狛犬と自身が奉納した狛犬の2対が川口神社にある。石工の高い技術を後進に継承すると同時にエンドユーザーとの関係づくりや普及活動も精力的に行う。

落合範崇(埼玉県教育局 文化資源課 文化財活用担当)

埼玉県職員として地域連携事業に取り組み、県民の生活に関わる種々多様な文化資源を紹介する。2019年、県内の狛犬の写真を一覧募集し人気投票を行う「#101匹の埼玉狛犬」を企画運営。幅広い世代が地域の文化財に親しむ機会を設けた。

参加費/500円

アトリア・サポートスタッフ (アートボランティア登録制度)

年間を通して多くの事業を開催する当ギャラリーでは、それを支えてくださるボランティアの方々が活動しています。ワークショップや講座の参加者に寄り添い一緒に創作活動に参加したり、スタッフとのミーティングを重ねながらイベントの発案・準備制作・実施運営を担ったりなど、お手伝いとどまらない主体的な活動を目指しています。登録は4～5月に行い、活動期間を1年としています(更新可/中学生以上)。幅広い年齢層・職業の方がアートを通じて交流し、様々な体験とかけがえない時間を共有しています。



主な活動内容

ワークショップや講座等の運営サポート

ワークショップでは参加者に寄り添いながらそれぞれの楽しみを見つけるサポートを行います。技術や知識は重要ではありません。自身も楽しみながら参加をすることで感動を発見し、満足感につながる時間・空間の共有を目指します。

また実技講座等では、参加者に積極的に声をかけて実現したい表現を引き出すなど、交流を大切にしながら制作のためのサポートを行います。主体的に企画を提案し運営にかかわることもあります。

展覧会の作品や展示に関わるサポート

主に〈アートな年賀状展〉など市民参加展示では設営や片づけなどの展覧会の裏側にかかわっていただきます。さらに、企画展の出品アーティストが行う取材・制作への協力をお願いすることもあります。

定例会

月に1度程度のペースで活動の内容や方針について話し合う場を設けています。スタッフとやりとりしながらこれまでに気づいたこと・これからやってみようことを共有し、利用者の目線に立ったより良い施設運営へとつなげます。自分の興味や特技を生かして活動しているメンバーが寄り集まり、意見交換と提案をする機会です。

登録者数

令和2年度	12人(令和3年3月現在)
-------	---------------

貸しギャラリー事業

市民をはじめとした一般の方々にアート活動や作品発表の場としてご利用いただくため、館内の展示室およびスタジオをお貸出ししています。本年度は展覧会などで9件ご利用いただきました。

※一覧はP.14を参照ください。



〈和風照明「行灯展」〉



〈美の精鋭たち 2020+1 -hope for the future & meaning of life-〉

展示空間

展示室 (Exhibition Space)

どなたでも気軽に立ち寄れる企画展示や市民のアート作品発表の場です。ゆったりとした空間(天井高5m)で作品発表や鑑賞を楽しむことができます。可動壁により2室に分けられ、小品から大型作品まで様々な展示が可能です。

スタジオ (Studio)

ワークショップや講座など様々な美術活動を行う場所です。屋外との一体感があるこの空間は創作活動の幅を大きくひろげます。

ホワイエ/ウッドデッキ (Foyer/Wood Deck)

入口からまっすぐに伸びる通路上の空間です。展示室側の壁には平面作品が展示でき、反対側のガラス窓からはひろいウッドデッキとアートパークが見渡せます。

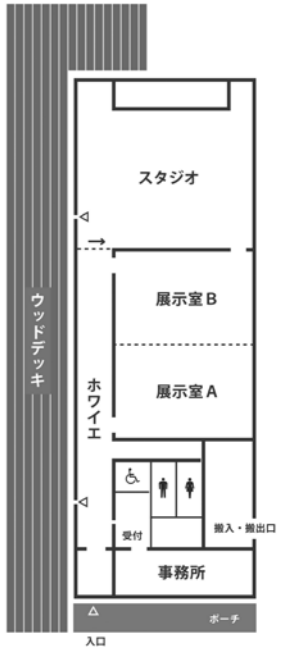
フロアマップ

展示室A/77.5㎡・壁面の長さ 計29.1m
 展示室B/77.5㎡・壁面の長さ 計29.1m
 スタジオ/195㎡・壁面の長さ 計21.2m
 ピクチャーレールの高さ/展示室3.5m・その他4.8m

利用料

	市内在住・在勤・在学	左記以外
展示室A	10,470円	15,700円
展示室B	10,470円	15,700円
スタジオ	20,900円	31,400円

※料金は1日あたり
 ※貸出は展示室は1週間ごと、スタジオは1日ごと



利用申込

申込は利用期日の1年前から募集を受付しています。専用の「貸しギャラリー申請書」に必要事項を記入のうえ当ギャラリーへ持参してください。郵送・FAXでも受付しています。申請書は、当ギャラリーの受付で配布するほか公式ホームページ (<http://www.atlia.jp>) からダウンロードすることもできます。
 ※申込多数の場合は公開抽選にて決定します。尚、公開抽選は申込期間の翌月(原則第1日曜日)に行います。

令和2年度 実施事業件数・利用者数一覧

事業名(企画展)	開催日数(日)	鑑賞者数(人)
春の企画展 第9回 新鋭作家展 ざらざらの実話	72	798
特別企画 川口市寄贈作品展 ～第一弾 大泉家コレクション～	14	1,861
ワークショップ 成果展示	5	72
秋の企画展 第15回 アーティスト・イン・スクール	—	—
新春企画展 アートな年賀状展2021	21	1,063
小計	112	3,794
事業名(地域・教育機関連携)	開催日数(日)	鑑賞者数(人)
第15回 川口市美術家協会選抜展	—	—
川口市小・中・高校硬筆展覧会	—	—
東京オリンピック・パラリンピック関連	—	—
第29回 水道ポスターコンクール入賞作品展示会	—	—
第55回 川口市特別支援学級合同作品展	—	—
川口の美術家たちのアートな毎日	—	—
中学生のART CLUB展	—	—
川口市小・中・高校書きぞめ展覧会	—	—
川口の図工美術まなび展	—	—
小計	—	—
合計	112	3,794

※表内のグレー部分は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止した事業です。

事業分野	件数	開催日数(日)	参加者数(人)
ワークショップ	2	3	34
たのしい実技講座	2	4	24
やさしい鑑賞講座	1	1	28
アートさんぽ	1	1	15
企画展関連イベント ※ギャラリートーク、アーティストトーク	2	2	23
合計	8	11	124

※2020年4月1日～2021年3月31日に実施した事業を集計しています。

■貸しギャラリー利用

展覧会名	展示室区分	利用日数(日)	鑑賞者数(人)
川口市退職教職員会 緑と文化の創造展(文化祭)	スタジオ	—	—
LEE HYUNOK 個展 2020	展示室 A	6	175
第3回グループ快 作品展	展示室 B	—	—
第31回川口市工芸展	スタジオ	—	—
ラッキーワイド 造形の世界2020	スタジオ	6	366
西陣美術織 若沖 動植絨絵展	展示室 A・B	6	670
第55回川口市小学生図画コンクール入賞作品展	展示室 A・B	—	—
第15回小学生「身近な生き物」絵画コンクール展示会	展示室 A・B	6	1,557
空と線 岡崎未来 個展	展示室 B	6	133
和風照明 「行灯展」	展示室 A	6	458
上青木公民館陶芸クラブ 作品展	スタジオ	3	294
光風会埼玉研究会	スタジオ	1	27
美の精鋭たち 2020 + 1 -hope for the future & meaning of life-	展示室 A・B・スタジオ	6	439
計		46 ※延べ日数 70	4,119

※表内のグレー部分は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止または変更した事業です。

年間開館日数	利用者(来館者)	月平均
219日	12,443人	1,037人

発行物

令和2年度 年間スケジュール

企画展やワークショップなどの情報をコンパクトにまとめて紹介しています。

仕様/A4変形サイズ・カラー・4つ折り
グラフィックデザイン/伊藤ヒロコ (Lallasoo Poopo Lab.)



令和2年度 アトリアニュース

隔月毎に企画展やワークショップなどの情報をまとめて紹介。市内を中心に近隣の文化施設などに配布しています。

仕様/A3サイズ・カラー・2つ折り、またはA4サイズ
グラフィックデザイン/古谷悠子



春の企画展 報告書

第9回 新鋭作家展 『ざらざらの実話』

公募で選出されたアーティストとともに展覧会を開催するまでの道程を記録した冊子。会場風景のほか、アーティストやスタッフコメントなども掲載。会期中に発行し鑑賞者に無料配布されたもの。

発行/2020年7月 仕様/B5サイズ・カラー・8ページ
グラフィックデザイン/大崎善治 (SakiSaki)



令和元年度 事業年報

事業を総括した年報。企画展をはじめ、ワークショップ・講座、関連イベントも収録。開催時の詳しい様子を、充実したカラー写真とともに紹介しています。

発行/2020年8月 仕様/A4サイズ・カラー・28ページ
グラフィックデザイン/大崎善治 (SakiSaki)



川口市立アートギャラリー・アトリア スタッフ

- 職員 青木真吾 (館長)
渡邊浩之 (主査/事務)
秋田美緒 (主任/学芸員)
茂木阿季 (主任/学芸員)
小野寺茜 (美術専門補助員)
柴澤希 (美術専門補助員)
向井ひなの (美術専門補助員)

※2021年3月31日現在

利用案内

開館時間

10:00～18:00（入館は閉館の30分前まで）

※企画展開催中の土曜日は20:00まで開館する場合があります。

観覧料

観覧会によって異なります。

休館日

月曜日 ※月曜日が祝日の場合はその翌平日

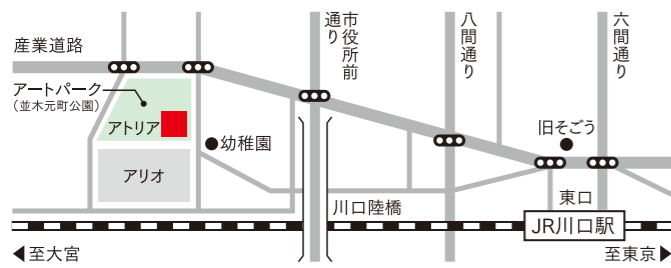
年末年始（12月29日～1月3日）

施設整備および展示入替期間

アクセス

JR川口駅（京浜東北線）東口から徒歩約8分

アクセスマップ



川口市立アートギャラリー・アトリア

Annual Report 2020.4-2021.3

令和2年度 事業年報

発行日

令和3(2021)年8月31日

発行

川口市立アートギャラリー・アトリア ©2021

332-0033 埼玉県川口市並木元町1-76

TEL 048-253-0222

FAX 048-240-0525

URL <http://www.atlia.jp/>

アトリアスタッフ

桑原幹夫・渡邊浩之・秋田美緒・茂木阿季・柴澤希・向井ひなの・榎原愛美

編集

秋田美緒（川口市立アートギャラリー・アトリア）

デザイン

大崎善治（SakiSaki）

写真

本文内で使用している写真には、撮影者名をイニシャルで示しています。

イニシャル表示のないものはアトリアスタッフが撮影したものです。

M.S.：末正真礼生

印刷・製本

株式会社グラフィック

